

三尋石(Ⅱ)遺跡  
富士塚遺跡  
中村中平遺跡  
西の塚遺跡

平成4年度市内遺跡緊急調査概報

1993. 3

長野県飯田市教育委員会

三尋石(Ⅱ)遺跡  
富士塚遺跡  
村中平遺跡  
西の塚遺跡

平成4年度市内遺跡緊急調査概報

1993. 3

長野県飯田市教育委員会

## 序

飯田市は、自然的条件に恵まれ、また、古来交通の要衝に位置しており、埋蔵文化財をはじめ、多くの文化財を遺しています。これらは私たちの地域社会や文化を形作ってきたさまざまな証しであり、できるかぎり現状の姿のまま後世に残し伝えることが私たちの責務でありましょう。けれども、同時に、私たちはより良い社会や生活を求めていく権利を持っています。ですから、日常生活のさまざまな場面で、文化財の保護と開発という相い容れぬ事態に直面することが多くなっています。

例えば、団体で行なう圃場整備事業の場合、区画整理を行ない、農業生産の高度化・機械化を図り、これによって生産性の向上を目指すもので、地区の農業振興のため、是非とも必要な事業であります。また、個人の住宅建設の場合も、快適な生活を送るために認められた基本的な権利といえましょう。けれども、事業予定地内に埋蔵文化財包蔵地がかかる場合、遺跡はその事業によって壊されてしまうことになります。こうした場合、それぞれの事業実施に先立って発掘調査をして記録としてとどめることも止むを得ないものといえましょう。

ただ、これらの事業は利益の追求に関わらない性格のもので、個人に費用の負担を求めることは困難であります。そこで、飯田市では平成元年度から国・県の補助を受けて、そうした事業に先立つ緊急発掘調査を実施しております。

現地調査の結果や整理作業の概要は本書のとおりでありまして、調査で得られましたさまざまな知見はこれからの地域史研究の上で貴重なものばかりであると確信いたします。

最後になりましたが、調査にあたり多大なご理解とご協力をいただいた地権者ならびに隣接地の方々、現地作業・整理作業に従事された作業員の方々ほか関係各位に深甚なる謝意を申し述べつつ刊行の辞とする次第であります。

平成5年3月

飯田市教育委員会

教育長 小林恭之助

## 例 言

1. 本書は農業構造改善事業および宅地開発により破壊される遺跡の記録保存を図るため、国・県の補助を受けて平成4年度に実施した市内遺跡緊急調査の概要報告書である。
2. 本書の内容は、市内遺跡緊急調査のうち、土地改良総合整備事業（大瀬木東）に先立つ三尋石（Ⅱ）遺跡・富士塚遺跡発掘調査、土地改良総合整備事業（小規模排水）中平地区に先立つ中村中平遺跡発掘調査、個人住宅建設に先立つ西の塚遺跡発掘調査である。
3. 発掘調査は飯田市教育委員会の直営事業として、地権者をはじめ地元地区ほか多くの方々の協力を得て実施した。
4. 調査組織は以下のとおりである。

### (1) 調査団

調査担当者 小林 正春・馬場 保之

調査員 佐々木嘉和・佐合 英治・吉川 豊・澁谷恵美子・福沢 好晃

作業員 池田 幸子・市瀬 長年・井上 恵資・今村 治子・大野 深・

大原 久和・岡島 亘・加藤 時友・金井 照子・金子 正子・金子 裕子・  
唐沢古千代・唐沢さかえ・唐沢やち子・川上みはる・川上 玲・木下 早苗・  
木下 傳・木下 義人・木下 玲子・吉良 忠雄・榎原亜紀子・榎原 勝子・  
久保田美津子・久保田やよい・小池千津子・小島 孝修・小平不二子・  
小平 峯子・小平 隆二・小西 広司・小林 千枝・斉藤 千里・斉藤 徳子・  
坂井 勇雄・坂下やすみ・塩沢 澄子・清水 三郎・下井 正俊・菅沼 庄三・  
菅沼和加子・高橋収二郎・滝上 正一・田口久美子・田中 恵子・田中 百子・  
田畑 恵子・塚原 次郎・遠山 駒吉・中平 隆雄・丹羽 啓子・丹羽 由美・  
萩原 弘枝・林 朝子・林 勢紀子・肥後 みち・平栗 陽子・福沢 育子・  
福沢 勲・福沢 五男・福沢 幸子・福沢トシ子・古井 純男・細田 七郎・  
牧内 郁代・牧内 修・牧内喜久子・牧内とし子・牧内 八代・増田香代子・  
松下 成司・松下 真幸・松下 光利・松本 恭子・松本 幸子・三浦 厚子・  
溝上 清見・南井 規子・宮内真理子・森 章・森 津多恵・森 信子・  
森藤美知子・矢沢 房子・柳沢 謙二・山田 康夫・吉川 悦子・吉川 和宏・  
吉川紀美子・吉川小夜子・吉川 正実・吉沢まつ美・依田 時子

- (2) 指導 文化庁  
長野県教育委員会文化課
- (3) 事務局 飯田市教育委員会社会教育課  
安野 節(社会教育課長)  
原田 吉樹( " 文化係長)  
小林 正春( " 文化係)  
吉川 豊( " " )  
馬場 保之( " " )  
澁谷恵美子( " " )  
福沢 好晃( " " )  
藤田 恵(社会教育課社会教育係)

5. 本書は、調査員全体で協議の上、馬場保之、澁谷恵美子が編集・執筆し、本文の一部について小林正春が加筆訂正・総括を行なった。
6. 調査の結果出土した遺物および記録された図面・写真類は、飯田市教育委員会が管理し、飯田市考古資料館で保管している。

## 本文目次

序

例言

目次

I. 三尋石(Ⅱ)遺跡・富士塚遺跡	8
1. 調査の経過	8
2. 調査の概要	10
(1) 三尋石(Ⅱ)遺跡	
(2) 富士塚遺跡	
3. まとめ	11
II. 中村中平遺跡	12
1. 調査の経過	12
2. 調査の概要	14
(1) 第1地点(飯田市中村980-1ほか)	
(2) 第2地点(  "  864-1ほか)	
(3) 第3地点(  "  996ほか)	
3. まとめ	15
III. 西の塚遺跡	16
1. 調査に至るまでの経過	16
2. 調査の概要	16
3. 調査の結果	19
4. まとめ	19

## 挿 図 目 次

第1図 各遺跡の位置	7
第2図 三尋石(Ⅱ)遺跡・富士塚遺跡遺構分布図	9
第3図 中村中平遺跡地点および周辺地図	13
第4図 西の塚遺跡調査地点および周辺地図	17
第5図 西の塚遺跡全体図	18

## 図 版 目 次

図版 1	三尋石(Ⅱ)遺跡重機作業風景 遺構分布状況 .....	21
図版 2	富士塚遺跡遺構分布状況 遺構掘り下げ作業 .....	22
図版 3	中村中平遺跡重機作業風景 遺構分布状況 .....	23
図版 4	遺構分布状況 遺物出土状況 .....	24
図版 5	遺物出土状況 遺構検出作業 .....	25
図版 6	遺構掘り下げ作業 .....	26
図版 7	遺構掘り下げ作業 委託測量調査風景 .....	27
図版 8	西の塚遺跡調査区全景 .....	28
図版 9	溝址 1 .....	29
図版 10	埴輪出土状況 発掘調査風景 .....	30
図版 11	航空測量風景 .....	31



1. 三尋石(II)・富士塚遺跡 2. 中村中平遺跡 3. 西の塚遺跡

第1図 各遺跡の位置



## I. 三尋石（Ⅱ）遺跡・富士塚遺跡

### 1. 調査の経過

平成2年度において、飯田市長 田中秀典より飯田市伊賀良大瀬木地区における土地改良総合整備事業の計画が提示され、平成2年8月23日、事業にかかる埋蔵文化財包蔵地について、事業主体である飯田市農林部耕地課と長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が保護協議を実施した。その結果、農業予定地にかかる遺跡についてとりあえず試掘調査を実施し、遺構・遺物が確認された箇所については飯田市教育委員会に発掘調査を委託実施し、記録保存を図ることとなった。ただし、事業費総額の15%は農家負担分であり、それについては文化財を保護する立場の教育委員会が対応すべきとして、国庫補助事業として事業執行を図った。平成3年度は、試掘調査後、三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡について本発掘調査を実施した。平成4年度施工予定地については三尋石（Ⅱ）遺跡・富士塚遺跡の2遺跡が該当する。

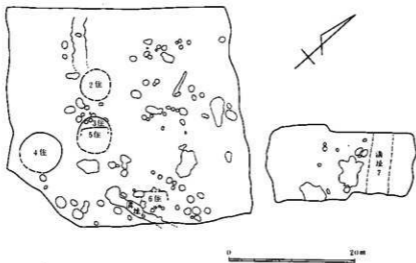
諸協議に基づいて、平成4年4月13日、三尋石（Ⅱ）遺跡について試掘調査に着手し、重機を入れた後、4月15日、作業員により遺構の確認作業を行なった。その結果、縄文時代中期の竪穴住居社が確認され、本発掘調査を実施することとなった。5月15日、重機を入れて表土剥ぎを行ない、5月20日、作業員を入れて作業を開始した。重機の荒れ土を除去し、竪穴住居社続いてその他の遺構を検出し、掘り下げて精査した。工事の工程上、富士塚遺跡について試掘調査その他を進める必要が生じ、5月25日調査を一旦中断した。

5月26日、富士塚遺跡について試掘調査を実施した。その結果、縄文時代後期の土坑および遺物、多数の小柱穴等が確認され、本発掘調査を実施することとなった。5月27日、本調査に着手した。重機を入れて表土剥ぎを行ない、6月1日、作業員を入れて作業を開始した。重機の荒れ土を除去し、土坑・集石・小柱穴その他の遺構を検出し、順次掘り下げて精査した。そして、全体および個別の写真撮影、集石の断ち割り調査等を行ない、6月16日、富士塚遺跡の作業を終了した。

引き続き、三尋石（Ⅱ）遺跡の調査を再開した。遺構検出作業、同掘り下げ作業、写真撮影等を行ない、最後に、炉址等の断ち割り調査や補充の測量調査をして、7月1日現地での作業を終了した。

なお、航空写真撮影・航空測量調査は㈱ジャステック・コンサルタンツに委託実施した。

一方、飯田市考古資料館において、三尋石遺跡・増泉寺付近遺跡の出土遺物の水洗・注記と接合および復元の一部、遺構図について第二原図の作成・トレース・貼り込み等の整理作業を平成4年度を通じて継続実施した。また、三尋石（Ⅱ）遺跡・富士塚遺跡については現地作業の後、



三尋石(II)遺跡



富士塚遺跡

第2図 三尋石(II)遺跡・富士塚遺跡遺構分布図

現地で記録された図面・写真等について基本的な整理事業を行ない、本報の作成作業にあたった。

## 2. 調査の概要

### (1) 三尋石(Ⅱ)遺跡

調査区は、比較的傾斜が急な扇状地の中央付近に当たり、田面の造成に際し、大きく削平・土盛りされている。また、各所に暗渠排水が掘り設けられており、遺構の遺存状態はやや不良である。

三尋石(Ⅱ)遺跡で調査された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

#### 1) 縄文時代中期

縄文時代の遺構は、主に新川に寄った部分に位置しており、中期後半の2～4号住居址ほか多数の土坑があり、周辺に該期の若干の遺構・遺物が分布している。4号住居址は8本の支柱穴をもつ竪穴住居址で、中央やや北西寄りに長方形の大きな石組炉が設けられていた。また、2号住居址からは多量の土器が出土した。

#### 2) 弥生時代後期

該期の遺構の占地は基本的に縄文時代と同じである。竪穴住居址は削平を受け、平面形・規模等詳細は不明であるが、硬い床面や壁の一部、壺・甕等の遺物が確認されている。

#### 3) 中世以降

断片的に遺物が出土しており、時期の明確な遺構はない。溝址・土坑等が該期に属すると考えられる。

### (2) 富士塚遺跡

富士塚遺跡は笠松山系の尾根から連続する微高地上に展開しており、今次調査地点は微高地北東側縁辺に相当し、調査区北側は押し出しと考えられる礫層、北東側は次第に湿地化していく。水田化に際して削平を受けた部分は、遺構の遺存状態が悪く、調査範囲から除外した。

富士塚遺跡で調査された遺構・遺物の概要は以下のとおりである。

#### 1) 縄文時代後期

該期の遺構は、土坑があり、土坑1からは後期後半の良好な資料が出土している。また、詳細時期は不明であるが、集石炉もこの時期のものと考えられ、摺鉢状の掘り込みに焼けた10～20cm

大の礎がびっしり詰まっており、礎下に炭が多量に検出された。

## 2) 中世以降

多数検出されている小柱穴がこの時期のものと考えられ、中には櫛列を構成すると思われるものがある。他に断片的ながら遺物が出土している。

## 3. まとめ

三尋石(Ⅱ)遺跡で確認された縄文時代の集落は、分布状況から新川に面して細長く分布していると考えられ、東側は平成3年度に調査された三尋石遺跡の1号住居址付近までおよんでいる。出土遺物や分布等から比較的短期間の集落と考えられ、隣接する増泉寺付近遺跡と比較するとき、伊那谷を特徴づける高位段丘上の扇状地における縄文社会の実相を浮き彫りにするといえる。

また、これまで調査された弥生時代後期集落の多くは、周辺に生産の基盤となる低湿地が見い出せ、畑作ばかりでなく稲作も重要な位置を占めていたと考えられるが、今次調査地点周辺にはそうした低湿地は見当たらない。笠松山系の尾根上に立地する細田北遺跡等と同様、畑作に大きく依存した集落といえるかもしれない。

中世以降についても、ごく断片的ではあり、具体的な状況は不明である。

富士塚遺跡については、縄文時代の遺構・遺物は後期後半のものが断片的に得られたのみで、遺構の疎な分布状況からして集落の周縁部分に相当すると考えられる。集落の中心は今次調査地点の西側の微高地上にあったと考えられ、平成5年度事業予定地付近に相当する。伊賀良地区はじめ飯田市内では、該期の集落はこれまでほとんど調査されておらず、いったいどのような社会であったか等々、実態は不明といわざるを得ない。遺物の内容等からすれば基準となる資料といえ、中心部の遺構の分布状況が把握できれば、遺跡の姿がかなり鮮明にされると考えられる。今後、整理作業を進め、調査成果を総括すると同時に、平成5年度事業予定地についても、試掘調査を実施して保護措置を講ずる必要がある。そうした中で、今次調査地点の位置付けも十分に成し得るといえよう。

いずれにしても、事業地一帯は、縄文時代以来連続と人々が生活した痕跡をとどめており、それぞれの遺跡は、地域の歴史を正しく理解する上で欠くことのできない大切な遺跡といえる。今後、整理作業を進め、調査成果の活用を図ると同時に、事業地周辺についてもその保全を図ることが肝要といえよう。

(馬場 保之)

## II. 中村中平遺跡

### 1. 調査の経過

平成3年度において、飯田市長 田中秀典より飯田市伊賀良中村中平地区における土地改良総合整備事業の計画が提示され、平成3年9月9日、事業にかかる埋蔵文化財包蔵地中村中平遺跡について、事業主体である飯田市農林部耕地課と長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が保護協議を実施した。その結果、試掘調査を実施し、試掘結果に基づいて改めて協議することとなった。

事業計画が具体化されたのを受けて、平成4年4月23日、試掘調査に着手した。まず、土地の利用状況・地形等を勘察し、重機により12本の試掘トレンチと4個の試掘グリッドを掘削した。同27日作業員を入れて、各トレンチ・グリッドを精査した。その結果、縄文時代中期・弥生時代後期・中世の多数の遺物が出土し、縄文時代中期の竪穴住居址・土坑、中世の掘立柱建物址等が確認された。

そこで、平成4年5月18日、飯田市農林部耕地課・長野県教育委員会・飯田市教育委員会の三者が改めて現地で保護協議を実施した。その結果、中村中平遺跡については、事業実施に先立ち次善の策として造成により地下に大きく影響を与える部分について発掘調査を行ない、記録保存を図ることとなった。発掘調査は飯田市教育委員会が実施することとなった。

なお、土地改良総合整備事業は国・県の補助を受けて実施されるものであり、発掘調査費用のうち農家負担分については、国・県の補助を受けて飯田市教育委員会が実施する直営事業市内遺跡緊急調査で行なうこととなった。

諸協議に基づいて、事業地内の作物が収穫されるのを待って、12月8日、現地調査に着手した。まず、第1地点(中村980-1ほか)、続いて第2地点(中村864-1ほか)に重機を入れて表土剥ぎを行なった。12月14日、等1地点に作業員を入れて作業を開始した。重機の荒れ土を除去し、竪穴住居址続いて掘立柱建物址その他の遺構を検出し、掘り下げて精査した。それらについて写真撮影を行ない、航空写真撮影・航空測量調査を(株)ジャステック・コンサルタンツに委託した。平成5年1月21日、第2地点に移動し、同様の作業を実施した。第1地点については、試掘調査時点で作付けの関係上、遺構の分布範囲を十分把握できていなかったため、調査区を拡張する必要が生じ、1月19日重機を入れて拡張区の表土剥ぎを行なった。1月27日、再び第1地点に作業員を入れて作業を再開した。重機の荒れ土を除去し、竪穴住居址等の遺構を検出した。これらについて、順次掘り下げを行ない、写真撮影・測量調査を委託実施した。また、第3地点(中村996ほか)についても、1月18日に試掘調査を実施したところ、竪穴住居址等の遺構が確認され、2



第3図 中村中平遺跡調査地点および周辺地図

月4日、重機を入れて表土剥ぎを行なった。2月8日、遺構検出・掘り下げ作業に着手し、同様の作業を実施した。最後に、炉址・カマド等の断ち割り調査や補充の測量調査をして、2月12日現地での作業を終了した。

引き続き、飯田市考古資料館において現地で記録された図面・写真等について基本的な整理作業を行ない、本概要報告書の作成にあたった。

## 2. 調査の概要

各調査地点で調査された遺構・遺物の概要は以下のとおりである、

### (1) 第1地点（飯田市中村 980-1ほか）

茂都計川に面した低位段丘上に位置し、調査地点の南東側では茂都計川の古い氾濫原が大きく現河道より北側に拡大している。

縄文時代の遺構としては、東端に中期中葉の竪穴住居址1軒があり、周辺に該期の若干の遺構・遺物が分布している。

弥生時代には茂都計川に面した緩斜面に後期の竪穴住居址2軒があり、磨製石廬丁等が出土している。

古墳時代後期は本調査地点の遺構の約半数を占める。竪穴住居址10軒の他、掘立柱建物址4棟等があり、建物址を取り囲むように住居址が分布している。重複する住居址が少なく、また、火災に遭ったものが多く、遺物量が多い。

中世以降の遺構は、竪穴住居址の他、建物址を構成すると考えられる小柱穴等があり、ほぼ古墳時代後期の遺構分布と重なって分布する。

### (2) 第2地点（飯田市中村 864-1ほか）

茂都計川北側に展開する扇状地の縁辺に位置し、調査面積は少ない。縄文時代中期後半の竪穴住居址1軒の他、土坑・柱穴が検出された。住居址の炉址底面には破砕された土器片が敷き詰められていた。

### (3) 第3地点（飯田市中村 996ほか）

第1地点北東側に位置し、両者の間には小さな湿地状の部分がある。第3地点は押し出された地形と考えられ、地山に礫が多数含まれる。遺構確認面が浅く、遺構の平面形等詳細でない点も

あるが、中世の住居址・小柱穴・生活面等が確認され、ほぼ全面に遺物の散漫な分布が認められる。

### 3. まとめ

今次調査の概要はこれまで述べてきたとおりであり、今後整理作業を進める中で遺跡の内容が明らかにされ、地域の発達史の解明に資する情報を提供すると期待される訳である。

第1地点の一面と第2地点で調査された縄文時代の集落は、ごく断片的で具体的な状況は不明であるが、この地域の歴史が縄文時代中期に遡ることが明らかにされた。隣接する茂都計川および笠松山系東麓に展開する扇状地に支えられた、比較的規模の小さい集落の存在が予想される。

飯田下伊那地方で遺跡数が急増する弥生時代後期には、低位段丘縁辺のかなり水際に近い位置から竪穴住居址住居が確認されており、該期集落の構造等を把握する上で重要といえる。

今次調査地点では、古墳時代後期の集落の全体像が良好に把握されており、竪穴住居址・孤立柱建物址の配置状況等が明らかにされた点、重要である。遺跡北側に展開する段丘崖付近には中村狐塚古墳・寺畑古墳・大名塚古墳・宮原2号古墳があり、これらの築造に関与した人々の供した場と考えられる。

中世以降についても、調査地区の広い範囲に該期の遺構・遺物が分布しており、氾濫を被らない安定した集落の姿を見て取ることができる。

今次調査では、主に低位段丘から縄文時代中期、弥生時代後期・古墳時代後期・中世以降の人々が生活した痕跡が確認されている。第1地点周辺には茂都計川の堆積作用に起因する砂質ロームが分布しているが、縄文時代以降は安定した地域であったと考えられる。特に、古墳時代後期にあっては、周辺の古墳築造の担い手となった比較的規模の大きな集落が営まれており、これを支えた茂都計川の氾濫原および調査地点北側の湿地帯は、相当の生産力を有していたといえる。反面、これまでのところ、各時期の集落の継続期間はそれほど長くないと考えられ、推測の域を出ないが、あるいは安定した地形ではあっても地点を移動するといったことがあったのかもしれない。

いずれにしても、縄文時代以来、連続と人々が生活した痕跡をとどめた地域であったわけであり、地域の歴史を正しく理解する上で欠くことのできない大切な遺跡といえる。今後、整理作業を進め、調査成果の活用を図ると同時に、事業地周辺についてもその保全を図ることが肝要といえよう。

(馬場 保之)



### Ⅲ. 西の塚遺跡

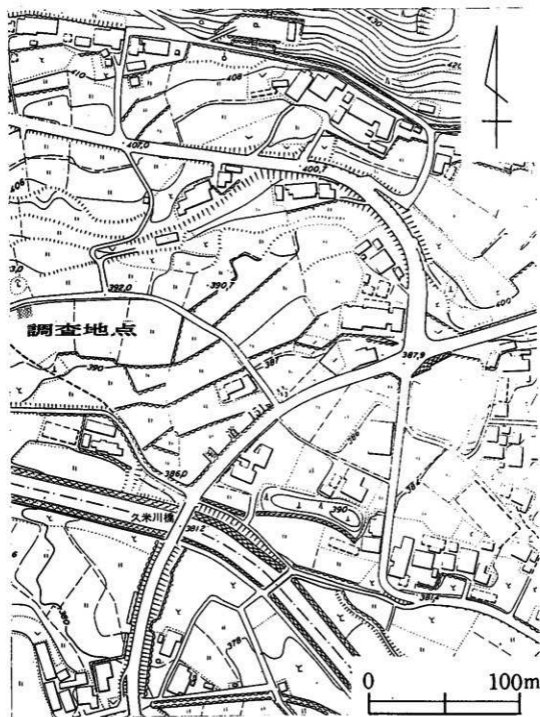
#### 1. 調査に至るまでの経過

飯田市上川路に所在する西の塚遺跡は、天竜川の支流久米川を望む低位段丘上に位置する。この地域は、南方の竜丘桐林地区とともに飯田市内における古墳密集地帯であり、西の塚遺跡の南東には長野県史跡御嶽堂古墳が存在する。当遺跡内だけでも、横穴式石室を有する権現塚古墳（権現3号古墳）、権現4号古墳が現存しているほか、すでに破壊されたものも含めて、現在6基の古墳の存在が確認されている。また、縄文時代の土器・石器の散布地でもあることから、該期の集落の存在も十分に考えられる。

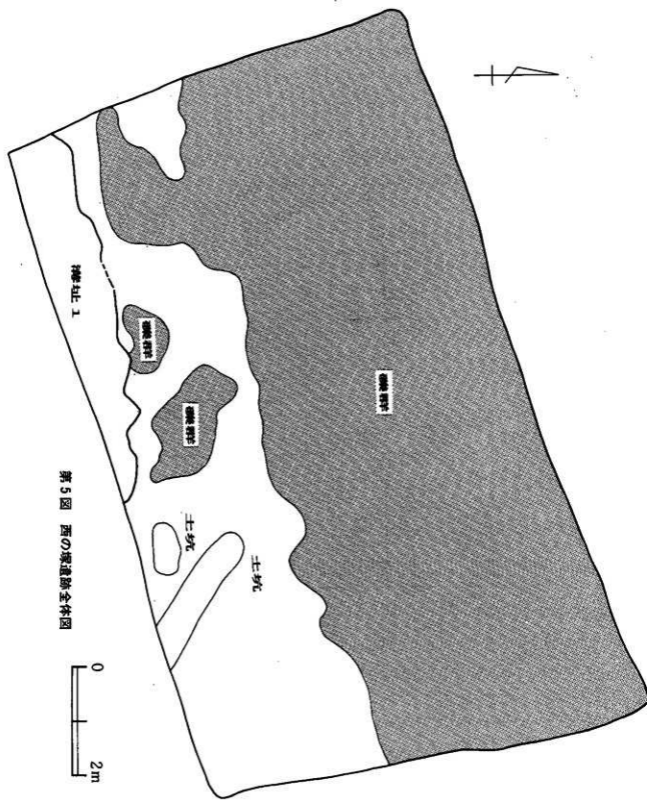
今回の調査は、平成5年1月8日に飯田市上川路408に居住する井口米吉から飯田市教育委員会に提出された、飯田市上川路905に住居を新築する計画を受けたもので、前述のような状況から、縄文時代はもとより、当該地の北側に近接する権現塚古墳と関係する遺構、もしくは未確認の渾成古墳が存在する可能性が強く、事前に発掘調査を行なう必要があると判断されたことによる。発掘調査実施に伴う協議を経て、平成5年2月20日より現地での調査に着手した。

#### 2. 調査の概要

平成5年2月20日に、重機による表土除去作業に着手した。現地は水田であるが、耕土のみを剥いだ状態で既に埴輪の出土がみられたことから、この時点では遺構は確認できてはなかったが、重機から人力による作業に移った。埴輪は調査区全体から出土しており、前述の状況からも古墳の周溝が確認される可能性が強いと思われ、順次、調査区全体を掘り下げていった。調査区北側から2/3の範囲では、表土下約50cmより礫群が検出された。当初、崩落した墓石かとも思われたが、埴輪はこの礫群上層の黒褐色土内に集中しており、礫群中にはほとんど埴輪はみられないことから、墓石等の古墳に関係するものではないと判断した。この礫群は南側では検出されず、南側部分を掘り下げたが、すぐに地山の礫層になり、南隅にわずかに浅い溝状の掘り込みが検出されたのみで、明確な古墳の周溝等は確認できなかった。しかし、この部分は埴輪が比較的多く出土しており、あるいは南側の礫群のみられない部分に何らかの遺構が存在する可能性もありうる。いずれにせよ、今回の限られた調査区域内では判断はできなかった。最終的に、北側の礫群の堆積状況・地山の確認のため南北方向にトレンチを明け、礫群の下も南側と同様、地山の礫層が広がることを確認した後、精査・写真撮影・測量作業を行ない、平成5年3月15日に現地での作業を終了した。



第4図 西の塚遺跡調査地点および周辺地図



第5図 西の環道跡全体図

### 3. 調査の結果

前述のとおり、古墳に伴う遺構を確認するにはいたらなかった。

出土遺物は埴輪が多数を占める。破片のみであり原形を復元することはできないが、円筒埴輪が主体となるようであり、一部形象埴輪と思われるものも出土している。『下伊那史』によると権現塚古墳からは埴輪が出土したとの記述があるが、今回の出土品との関係は不明である。

埴輪以外では、縄文時代中期の土器片と石器がわずかに出土したが、古墳同様遺構の確認はできなかった。

### 4. まとめ

今回、明確な遺構確認はできなかったが、南側の礎群のみられなくなる部分は、覆土の堆積状況も北側とは異なり、埴輪の出土量も比較的多い。北側の権現塚古墳との位置関係から、調査区の南側に未確認の渾滅古墳が存在する可能性もある。

権現塚古墳や御猿堂古墳では埴輪の存在が知られているが、今回の調査とあわせてこの地域の古墳が桐林の塚原古墳群と同様、典型的な埴輪を有する古墳群であることが確認されたといえる。今後の周辺部の調査に待ちたい。

(澁谷恵美子)





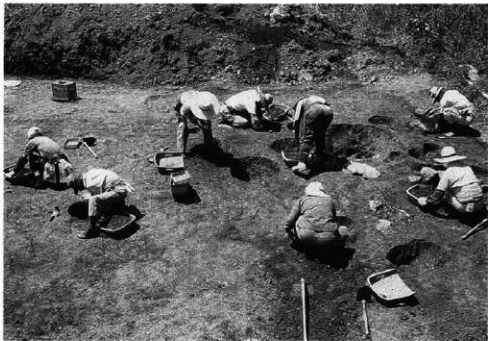
三尋石（II）遺跡重機作業風景



遺構分布状況



富士塚遺跡遺構分布状況



遺構掘り下げ作業



中村中平遺跡重機作業風景



遺構分布状況



図版 4



遺構分布状況



遺物出土状況



遺物出土状況



遺構検出作業



遺構掘り下げ作業



同上



遺構掘り下げ作業



委託測量調査風景



西の塚遺跡調査区全景



北側の権現塚古墳より調査区を望む



清址 1



壇輸出土状況



発掘調査風景



航空測量風景



同上



三尋石(Ⅱ)遺跡  
富士塚遺跡  
中村中平遺跡  
西の塚遺跡

平成4年度市内遺跡緊急調査概報

発行日 平成 5 年 3 月

発行者 飯田市教育委員会  
長野県飯田市大久保町2534番地

印刷所 飯田共同印刷株式会社

